

KADENA SKOSHI

NOV and DEC 2012

Vol. 50



第18航空団広報局発行
www.kadena.af.mil

第13回 嘉手納スペシャルオリンピックス

アスリートとアーティストを合わせて過去最高の参加者数となった第13回嘉手納スペシャルオリンピックス大会が嘉手納基地ライズナー運動施設で11月17日(土)開催されました。今大会には約900人のアスリート、約1200人の家族や関係者、2000人を有に超える米国人ボランティア、約500人余の通訳ボランティア、そして沖縄県関係者、周辺自治体や米軍からの関係者を含むあよそ5000人が参加しました。約520人のアーティストが出展した絵画展もライズナー体育館内で同時開催されました。



(米空軍：マリア・ジェンキンス上等兵撮影)



(米空軍：ヘイレイ・ディヴィス上等兵撮影)

第18航空団司令官と共に来賓の方々も会場に到着するアスリートを迎へ、基地内学校に通う小学生で構成されたチアリーダーや日米のボランティア達が歓呼と鳴り止まない拍手でアスリートを歓迎しました。

また、今大会には、米国ワシントンD Cに本拠地をおくスペシャルオリンピックス国際本部から副理事長で、リーダーシップ育成及び教育部門を担当しているデイブ・レノックス氏が来沖し、日米のボランティアが連携し運営する大規模で、地域に密着した類のない大会であると絶賛し、他の地域におけるスペシャルオリンピックス大会の模範になると感想を述べました。

(次ページへ続く)

*“Let me win, But if I cannot win,
let me be brave in the attempt.”*

- Special Olympics Oath -

SKOSHI KADENA NOV & DEC 2012



1 第13回 嘉手納スペシャルオリンピックス
嘉手納スペシャルオリンピックス ボウリング競技会
KS0アートオークション初開催

2 沖縄国際婦人クラブ(OIWC)、ハロウィーン昼食会
アメリカ版「料理の鉄人」が嘉手納基地にやって来た！
第554レッドホース中隊、沖縄一条園に芝刈り機を寄贈
沖縄国際カーニバル2012

3 現役高校生、デリースが教えてくれる
嘉手納基地内学校情報あれこれ

4 太平洋空軍司令官、嘉手納基地を訪問
米国空軍長官、嘉手納を訪問
即応態勢監査
軍用地地主会の視察訪問

5 スコシ・カデナ2012年主な出来事

今年は元大関のKONISHIKIさんが応援に駆けつけてくれました。大きなスペシャルゲストの訪問にアスリートたちも大喜び、一緒に写真をとろうとKONISHIKIさんの行くところは常に人だかりができました。KONISHIKIさんもメダル授与者として雨のなか入賞したアスリートの一人一人と握手をし、惜しみない拍手を送っていました。

開会式が終わるまでかろうじてもった天気も、競技開始時刻から昨年同様荒れ模様となってしまいましたが、最後まで多くのアスリートが競技に参加していました。競技の合間、得意のハーモニカを持参した米国人ボランティアがアスリートが歌う日本の曲に合わせて演奏をするなど、アスリート達は競技に参加するだけではなくボランティアとの交流を図り大会を楽しんでいました。



第13回 嘉手納スペシャルオリンピックス大会の様子 2012 KADENA SPECIAL OLYMPICS



ボウリング競技会

第18航空団広報局



(米空軍：ジャスティン・ヴィセイ上等兵撮影)

台風17号で延期された嘉手納スペシャルオリンピックス・ボウリング競技会が、11月2日（土）に北谷町T.T.ボウルミハマアメリカンビレッジで開催されました。

2005年、嘉手納スペシャルオリンピックス大会にボウリング競技が加えられてから8回目となる競技会は、本大会同様、年々参加者が増え今年も昨年の参加希望者数を超えるました。毎年ボウリング競技会を楽しみにしているアスリートたちは競技開始1時間前に早々と会場に到着し始めます。ボランティアたちが歓迎の拍手でアスリートを迎えて、米陸軍第10支援団司令官ブライアント大佐の開会のあいさつで競技が始まりました。

日程変更があったにも関わらず、今年も第1部、第2部合わせて180人余の選手(米国防省立小中高校の生徒12人を含む)が競技に参加し、一投一投投げる毎に満面の笑みとガツツポーズを見せるアスリート、力強い投球で周りのボランティアを驚かせるアスリート、点数など気にせずボウリングを楽しんでいるアスリートと様々な面を見せてくれました。本大会同様、日本人通訳ボランティア、米国人ボランティア合わせて約120人が競技会を支えました。

KSOアートオークション初開催

第18航空団広報局

嘉手納スペシャルオリンピックス（KSO）大会及び美術作品展示会の歴史は10年余になります。その間、多くの方々から展示された美術作品を購入したいという希望が寄せられてきました。

11月2日（金）、プラザハウスショッピングセンターのフェアモール3階にて初の試みであるKSOアート・オークションが開催されました。このアート・オークションは、県内の障がい者の豊かな才能を反映した創作作品を称賛すると同時に、オークションで得られた殆どの収益金を作品を創作した障がい者の方々に贈呈し、将来の創作活動や所属団体の活動に役立ててもらいたいという趣旨があります。

この呼びかけに応え、近隣の福祉作業所より創意工夫に満ち溢れた木工作品や陶芸、絵画などが多数集まりました。会場では、招待された米軍関係者や地元の来賓の方々がオリジナリティに富んだ作品に大変高い関心を示していました。収益金の殆どが贈呈されるということもあり、中には高額の入札をした方もいます。



このアート・オークションのボランティアの一員であるソフィア・ギャリッチさんは、「KSOの本大会もそうですが、このアート・オークションにおいても一つの目的のために日米両国の人々が様々な形で協力しました。大変素晴らしいことです。ボランティアとして参加できたことを大変光栄に思います。本大会がアスリートの日ごろのスポーツを通じた努力を賞賛する日であるのならば、今回のアート・オークションは、アーティストたちの豊かな才能を共に喜び分かち合う日だと思います」と述べました。